



新しい時代を生きる子どもたちのためにできること

園長 川嶋佳恵

「1月は行く」、「2月は逃げる」、「3月は去る」と言いますが…あっという間に2月がやってきますね。カレンダーで、今年度の残りの全員保育の日数を数えると、35日前後となります。4月のころを振り返ると、びっくりするくらいいろいろな面で大きくなった子どもたちの姿に成長を感じ、うれしくなります。保護者の皆様もお子様の少し前を振り返って、お子様の成長を共に喜び合う時間を作ってみるのもいいですね。

今月は時代の移り変わりの中で私たちにできることについてお話します。2019年から2023年に大流行した新型コロナウイルス感染症によって、生活様式ががらりと変わり、教育においてもタブレットを使用してのオンライン学習に取り組む等が普通に行われるようになりました。オンライン化に関しては、教育界だけでなく、仕事や様々な会合のすべてにおいて、一挙に進みました。感染症の流行は大変でしたが、そのような中で、人々は数々の新しいアイデアを生み出し、新しい切り口、新しい捉え方、新しい活用法等社会的意義のある新しい価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらしたのではないかと考えます。

少し余談ですが…皆さんは、「風の時代」という言葉を聞いたことがありますか。私は、占いに興味があり、知り得た情報なのですが、占い界では、2019年の12月に時代の大きな節目が起こり、それまで200年以上続いた「(土)の時代」から「風の時代」に変わったと言われています。私は、占い師ではないので、詳しい説明はしませんが、「地の時代」は、物質的な豊かさや生産性、安定で、例えば、金銭・物質・権威等が重視されていましたが、「風の時代」は知性・コミュニケーション・個人等が重視されるようになるということです。簡単に言うと、お金や物質の豊かさ等は、情報を得ることや体験、人脈の豊かさに関わり、所有するということ、シェアするに変わる。安定は、革新に変わり、組織や会社は個人やフリーランスに、性別や国籍はボーダーレスに、成功や上昇の喜びは心の喜びに等「地の時代」に良しとされていたことや常識とされていたこと、ものの考え方や価値観がすべてにおいて、柔軟で、流動で、斬新で、自由でというように大きく変化していくと言われています。2019年以降は新型コロナウイルスの影響で、世界の価値観が大きく変わりましたが、その価値観がこの占星術界で言われる「風の時代」の価値観への移行ともリンクし、何か時代の大きな移り変わりを感じます。この新しい価値観は、多様化するすべての人が幸せを感じながら生きることにつながっていくようにも感じ、わくわくします。

そして現実社会では、AI(人工知能)の時代に向かってまっしぐらに進んでいます。すべてが便利になり、人があれこれと考えなくてもよい時代がやってきつつあります。私は、ペーパードライバーなので、車が自動運転できるようになってきたことをとてもうれしく思います。一生運転することは無いだろうと思っていましたが、もっと確実に安全な自動運転になった頃には、運転しているかもしれません。2030年には、現在の職業の47パーセントが人工知能に代替えされて雇用がなくなり、そのころの大卒者の65パーセントが現在存在していない職業に就くこととなると予想されています。そして、アメリカの大学とドイツの研究機関による調査結果では、2007年生まれの子どもたち(現在の18歳)の平均寿命は、なんと、107歳といわれています。子供園にいる子どもたちは、もっともっと長生きをするのかもしれませんが。医療技術も進むのでしょうか。AIがやってほしいことを思うようにしてくれる社会になるのだから、ストレスもあまりないのかもしれませんが。これも大きな時代の変化となるでしょう。しかし、AIの力に頼り切って、何も考えなくていい、何もしなくていい、人との関わらなくても済む状況の中で、107歳までの長い人生を生きることは、本当に楽しいのでしょうか。そう考えると、今後様々な分野でAI中心の時代になっても、身体的にも、精神的にも、社会的にも満たされ、幸福感や充実感を感じられる良好な状態で生きていくためには、人間は主体的に考え、行動することをやめてはいけなく、心や感情がある以上人と共に関わりながら生きていくことは不可欠なのだと思います。

では、このように価値観の多様化と多元化、人工知能の急速な発達、人生100年時代の到来など近い将来の社会の姿、世界の状況が明確に分かってきている中で、すべきことは何でしょう。それは、子どもたちの人生が楽しく素晴らしい100年となるように、子どもたちが主体的な遊びの中で、考えたり探求したり追及したりして自ら学ぶ喜びを知り、固定概念にとらわれず多様な価値観を柔軟に受け入れ、仲間と情報を共有しながら、様々な物事の変化に柔軟に対応し、常に新しい価値観を作っていく力を育むことなのではないかと考えます。これは、まさに、高円寺北子供園の教育そのものです。このように時代は変わっても必要な教育として当てはまる高円寺北子供園を含む国公立幼稚園・子ども園が行っている教育の理念は不変であり、その教育は、不易なもの、欠くことのできないものだと国レベルでも示しています。高円寺北子供園では、いつも「すべては(を)子どもたちのために」をモットーに、固定概念にとらわれず物事を柔軟に見たり受け入れたり、状況の変化、社会の変化を見極めながら遊びから学べる指導・援助、環境の工夫をし、どのような時代になっても強く生きていける力、幸せに生きていける力を育んでいきます。



《今月の指導》

★3歳児 うさぎ組

何かになって遊ぶことが楽しく、繰り返し動物などのお面を身につけて教師や周りの幼児と簡単なやり取りをしながら動くことを楽しんでいます。節分が近づいていることから鬼のお面を身につけて鬼になることを楽しむ姿も増えてきました。遊びを通して日本の伝統的な行事にも興味関心をもっています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思ったことや感じたことを言葉や動きで表しながら遊ぶ。
- 学級のみinnなどでお話ごっこをしたり楽器を鳴らしたりする楽しさを感じる。
- 衣服の着脱など、自分でできることは自分からやってみようとする。

一人ひとりがのびのびと表現すること楽しみながら子ども会につながっていくようにします。

★4歳児 くま組

ごっこ遊びや園庭での転がしドッジや鬼遊びで友達と関わって遊ぶことがますます楽しくなっています。学級のみinnなどの楽器遊びでは、新しくトライアングルにも触れて楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 友達に思いついたことを伝えたり友達の言葉を受け入れたりして一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- 学級のみinnなどで歌ったり楽器を鳴らしたりすることを繰り返し楽しむ。
- 自分たちでできる生活に必要なことを友達と一緒に進めていこうとする。

ミニミニコンサートに向けて、歌や楽器に更に親しんでいきます。また、当番活動に引き続き取り組み、誕生会の司会や飼育物のお世話などもぞう組さんに教わりながら、「できることは自分たちで進めていこう」という気持ちをもって生活に必要なことに取り組んでいけるようにしていきます。

★5歳児 ぞう組

『もりのへなそうる』のお話のイメージで探検したり、大きな“へなそうる”をつくったり等、友達とイメージを共有して遊ぶことを楽しんでいます。また、氷の実験をして、冬の自然にも触れながら、考えたことや疑問に思ったことを試すことを繰り返し楽しんでいます。遊びや活動の中で繰り返し楽器に触れ、いろいろな楽器を音楽に合わせて鳴らす楽しさを感じています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 友達とのつながりの中で、挑戦したり、自分たちで遊びを進めたりしていく楽しさを味わう。
- 友達と声をそろえて歌ったり、友達と気持ちを合わせて合奏したりする楽しさを感じる。
- 園生活に見通しをもちながら、自分たちで生活を進めていこうとする。

ミニミニコンサートに向けて、友達と気持ちを合わせて演奏したり歌ったりすることを十分に楽しみ、自信をもって力を発揮できるようにしていきます。これまでぞう組の仕事として取り組んできた当番活動は、教え方を子どもたちと考えながら、くま組に引き継ぎを行っていきます。学級のつながりを大切に、残りの園生活も充実して過ごせるようにしていきたいと思ひます。